第一席　授業科目の選択と配分の問題における公平性と誘因両立性について

■佐々木 宏夫ゼミ
西山 諒

執筆動機

かねてから私は商学懸賞論文に入賞することに対して憧れを抱いておりました。というのも、ゼミの優秀な先輩方が何名も入賞してこられたところを見てきたからです。私もそうした先輩方のようになりたいと思い、入賞することを目標にして研究を進めてきました。そして、入賞することができ本当にうれしく感じております。二年半にわたりご指導してくださった佐々木宏夫先生に本当に感謝いたします。ありがとうございました。

論文の内容

一般に大学の授業科目は、大きく2種類に分けられます。選択科目と必修科目です。本研究では、選択科目に焦点を当てました。大学は選択科目を学生に割り当てる際に、学生の受講希望を集計します。その受講希望をもとに「公平」に科目を学生に割り当てることは実現可能かという問題について考察を行いました。考察の結果、各科目の定員が小さくなったとき、公平に科目を割り当てようとすると、大きな制度的問題が生じることがわかりました。

執筆に当たってのエピソード

今回私は授業科目を研究対象としたのですが、最初は科目とは違うものについて研究していました。最初、研究対象としていたのは私が所属していたサークルにまつわる事柄で、それが最終的に科目の研究につながりました。サークルの経験がなければ、今回の卒論は書けなかったと思います。経済学は現実の現象を考察する学問なので、研究を進める際には身の回りのことに目を向けることも重要だと実感しました。

後輩の皆さんへのメッセージ

いま私は、大学のゼミで十分に勉強することができて本当によかったと思っています。ゼミで経済学をみっちりと勉強することで今までの自分になかった新しい視点や考え方を得ることができました。それらは社会に出てからもきっと役立つものだと感じています。大学で身を入れて勉強することは決して損にならないと思います。ぜひ後輩の皆さまは少しでも学問に興味があるならば、真剣に勉強してみてください。きっと何か得るものがあると思います。

第二席　恋人を満足させる効果的な方法：距離と通信が恋愛満足度に与える影響の計量的分析

■片山 東ゼミ　グループ4名
清水 利一、堀井 崇司、前田 瑞穂、若林 寛之

論文の内容

片山ゼミでは毎年、３年次に早稲田商学懸賞論文に応募させて頂いています。片山ゼミはまだ新しいゼミですが、昨年、一昨年に入賞した先輩方の後に続き、ゼミの良い伝統を築く一端を担えればという思いで、今年も入賞を目指して応募させていただきました。また、私たちの学んでいる計量経済学は、専門外の人には分かりにくい学問であるため、恋愛や通信といった身近な研究テーマを設定しました。

論文の内容

近年、通信媒体の発達によってコミュニケーションの方法は変化しています。メールなどの登場により、距離に関わらず容易にコミュニケーションを取ることが可能になりました。この背景から私たちは、遠距離恋愛は成就するのは難しいという定説に疑問を持ちました。通信技術の発達により、距離は恋愛に不利益を与えないのではないかと考えたからです。本論文は、恋愛に通信や距離、その他の要因がどういった影響を与えるのかを示すものです。

執筆に当たってのエピソード

変数設定の難しさが印象に残っています。データの収集を調査会社に依頼し、希望通りのデータを得られたと思っていても、研究を進めて行く過程で「あの変数について聞いておけば良かった」など、変数設定に対する反省点が露呈していきました。そうした中で、ご指導していただいた片山先生には懸賞論文を通じて計量経済学の魅力とその難しさを的確に教授していただき、心より感謝しております。

後輩の皆さんへのメッセージ

大学では、ただ講義を聞いてその理解度をテストで確認するといったように、受動的な勉強をしてしまいがちです。それに対して懸賞論文は、テーマ選びから執筆に至るまで、全ての段階を自分達で考えて能動的に行う必要があります。この経験は講義を受けるだけではできないものです。懸賞論文は、皆さんが大学で費やした努力の成果を表す絶好の機会だと思いますので、ぜひ挑戦して大きな成長への足がかりとして下さい。